

蓼沼ゆき（兵庫県加古川市）

タイトル「音」

日常にあふれる”音”に耳を傾けたことはあるか。

いつまでもやむことのない鳥のおしゃべり、無邪気な子供の笑い声、アスファルトを焦がすようなタイヤのきしむ音。しかし、目を閉じて心を落ち着かせると、普段考えてもいなかったような音に感動したり驚かされたりする。

例えば、雨。

梅雨時、雨ばかりでイライラするけれど、その音はとても個性的で、たくさんの種類がある。窓にあたる音、水たまりに落ちる音、傘に当たる音、肌にふれる音。その中にもまた、高音低音がある。どんな楽器でも表現できないほど、雨の音は美しい。

それから、風。

木々の間を通り抜ける音、田んぼの稲をなでる音、台風の時の力強い音。まるで人間のように様々な感情を持っている。

また、静寂にも音がある。

寝る前の気持ちが落ち着いている時、一人で静かに空を見上げる。飽きるまでじっと見つめる。そうすると、星がいろんな色にキラキラ輝きはじめる。それはまるで細やかで壊れてしまいそうなトリルの音。

月にゆっくり雲がかかる。それは、ぐっとペダルを踏み込んだ時の幻想的な音。そんな美しい夜空に出会った瞬間、私の心は研ぎ澄まされた音で一杯に膨らむ。時間も悩みも呼吸することすら忘れ、半ば夢の中にいるようにその空に吸い込まれる。

その時の私の心は、美しく繊細な曲を聴いた後のような心地よさに満たされる。

つまり私にとって静寂とは、一曲のピアノ曲を聴いているようなものなのだ。

ただ”耳”で聴きとる音だけでなく、私は”心”で聴きとる音もあると思う。

花にも雲にも、光や闇にも音がある。この世界にある物すべてに”音”がある。そしてそれは、聴く人によって様々に変化する。

たまには気持ちを落ち着かせて、身の回りにあふれる”心の音”を聴いてみるのもよいと思う。